

令和5年度 法人本部 事業報告

I. 総括の概要

- ・「いづみ☆みらいプロジェクトⅡ」の最終年度として、各事業所と業務改善会議を実施した。また、プロジェクトⅡの取り組み内容として、「倫理綱領」の策定とシンボルマークを完成させた。あわせて、次期の「いづみ☆みらいプロジェクトⅢ」の検討を行った。
- ・事業運営の安定につなげるため、職員の採用・育成・定着に取り組んだが、人材不足がより一層顕著になり、現場での人手不足の状態が厳しくなった。また、新卒者の採用活動もマイナビサイトを最大限に活用し取り組んだが、既卒経験者1名の採用にとどまり、新卒学生の採用には至らなかった。

II. 項目別総括

1. 「いづみ☆みらいプロジェクトⅡ」のまとめと次期計画の作成。

(1) 各事業所の改善について

サービスセンターの土曜活動を廃止し、ワーキングセンターの生活介護事業での土曜活動を開始した。児童デイサービスでは、ご利用児童の減少に伴い、2事業所編成・3活動へ移行した。また、日中一時支援をグループホームで受け入れるなど、人材の有効活用を行い、「選択と集中」をキーワードにした事業の見直しを行った。

(2) 倫理綱領の策定について

いづみ☆プロジェクトⅡでの完成をめざしていた「倫理綱領」を策定した。前期人権擁護研修会で職員の実際の声を集め、その後、研修のファシリテーターで倫理綱領検討会を開催し、原案の作成を行った。

(3) シンボルマークの作成

30周年の記念誌の作成をお願いした林孝弘氏にデザインを依頼し、シンボルマークが完成した。新年度より使用を開始していく。



(4) 次期計画の策定

「いづみ☆みらいプロジェクトⅢ」の案を3月理事会に提案し、承認を受けた。『持続可能性を高める』ことをキーワードにして、実施する事業の見極め、人材確保と定着の取り組み、観音寺本館の大規模改修に取り組むこととした。

2. 事業運営の安定につなげるため、職員の採用、育成、定着に取り組む。

(1) 職員の採用

- ・マイナビサイトを通じて、2024年度新卒の採用活動を実施した。WEBの採用説明会を年間18回開催し、実際に8名が採用実習に参加された。そのうち3名に内定を出したが2名が辞退され、既卒経験者1名を採用した。
- ・その他、ハローワークを通じた応募に対応した。木津川市（11月）や木津ハローワーク（10月・3月）主催の就職説明会にも参加し、パートの採用につなげた。

(2) 職員の育成

- ・研修委員会を中心として、キャリアアップ研修を6コース開催した。職員ごとの課題を踏まえながら、実際に担当しているケースをもとに研修を実施した。

- ・人権擁護研修を7月29日に開催した。補講を含め総勢71名が参加し、支援をするなかで大切にしていることについて、意見交流を行なった。出た意見をもとに倫理綱領の作成につなげた。

(3) 職員の定着

- ・コロナ禍中は退職が減っていたが、コロナが落ち着いた今年度は退職する職員も増えた。人手の確保が重要な課題となり、掃除や補助業務などの求人も出し、職員の補充を行った。
- ・職員一人ひとりと施設長が定期的に面談を行なうことにより、職員の悩みや状態の把握を行い、職員ごとに必要な支援や指導を実施した。事業所単位では対応が難しい場合については、事業部が面談を行うなどの対応を行った。

* 採用・退職状況 (4月1日～3月31日)

	採用	退職
正職・嘱託	4 (WC1, 児童1, 相談1, 総務1)	5 (相談1, WC2, 児童1, 総務1)
パート	14 (WC6, GH3, 総務1, ちたく1, 地活1, 児童2)	11 (WC4, GH3, 児童1, SC1, 相談1, 総務1)

3. その他

(1) 委員会…4つの委員会で法人全体に関わる課題について取り組んだ。

- ①衛生委員会：ご利用者への新型コロナウイルスの感染予防の呼びかけと職員への健康に対する意識向上のために「たより」の発行などの取り組みを進めた。年度後半には施設巡回を行ない、各事業所の感染予防の状況や就労環境を確認した。
- ②安全運転管理委員会：職員に安全運転に関するアンケートを実施した。また、近隣の運行上危険箇所についても地図にまとめ、職員に配布を行った。
- ③防災委員会：今年度も地域共生社会実現サポート補助金を使い、災害対応備品や備蓄の購入を実施した。業務継続計画(BCP)の検討を行い、各事業所で作成を行った。また、水害時避難確保計画にそって、各事業所で訓練を実施した。
- ④研修委員会：キャリアアップ研修を6コース開催した。職員の階層・課題別のグループ分けとし、実際の担当ご利用者のケースをもとに研修を行った。

(2) 総務部

- ・会計に関する業務については、適正な時期に処理を行なうことが定着した。2月に木津川市の行政監査を受けた。
- ・業務手順などの見直しを行い、より効率的な事務処理につながるように検討を実施し、業務改善を行なった。

Ⅲ. 今後の課題 (事業計画『重点施策』から)

(1) 「いづみ☆みらいプロジェクトⅢ」の取り組みを開始する。

『持続可能性を高める』をキーワードにして、事業の見直しや業務の改善を行なう。

また、観音寺本館大規模改修についても引き続き実施し、建物の長寿命化を図る。

(2) 事業運営の安定につなげるため、職員の採用・育成・定着に取り組む。

(3) 総務部業務について、デジタル技術なども取り入れ、業務改善を行なう。

令和5年度 地域活動支援センターいづみ 事業報告

I. 総括の概要

- ・新しく4名のご利用者に登録をいただいた。登録者数は52名（昨年度：48名）となった。新規登録の4名は他の障害福祉サービスは利用されていない方であった。

木津川市	笠置町	和束町	南山城村	精華町
42名(内:新規4)	3名	1名	2名	4名

- ・サロン活動について、参加者が大幅に減っている現状を受け、新たなプログラムの試行などを実施し、今後のサロン活動について、検討を実施した。また、木津川市グループワークについても同様に参加者が減少している状況を受け、木津川市健康推進課と協議を行い、次年度については実施を見送ることとなった。
- ・事業所等を利用されていない在宅のご利用者家族への支援を重点施策として取り組んだ。隔月で開催している家族交流会と合わせて、7月と3月に学習会を開催した。

II. 項目別総括

1. 相談活動

ご利用者の不安や困りごとの整理や解決にむけた面接、訪問に取り組んだ。

(1) 面接

ご利用者の不安や困りごとの整理や解決にむけた面談を実施した。定期的な面談では、現状の課題の整理や将来のことについての検討をされる方が多かった。

木津川市	笠置町	和束町	南山城村	精華町	合計
95回 (112回)	7回 (2回)	0回 (11回)	4回 (8回)	12回 (14回)	118回 (147回)

(昨年度)

(2) 訪問・同行

訪問については、ご自宅で過ごしておられる方を中心に訪問を行った。家庭での生活状況の聞き取りや訪問看護と連携をしながら、支援を行った。また、同行については就労に関連する同行などが増えた。(求人の相談、離職に関する手続きなど)

木津川市	笠置町	和束町	南山城村	精華町	合計
75回 (81回)	8回 (9回)	0回 (10回)	4回 (2回)	4回 (0回)	91回 (102回)

(昨年度)

(3) その他

○ 電話相談

来所が難しい状態にあるご利用者からの電話相談を受けた。また、ここには含まれていないが、メールなどによる相談も増えてきている。

木津川市	笠置町	和束町	南山城村	精華町	合計
572回 (525回)	47回 (22回)	8回 (18回)	11回 (4回)	55回 (24回)	693回 (593回)

(昨年度)

○ 家族交流会（5月・7月[学習会]・9月・11月・1月・3月[学習会]）

- ・隔月で交流会を実施した。年度後半に向かい、ご家族の高齢化が顕著となり、参加者が減少した。また、重点施策として、事業所等を利用されていない在宅のご利用者家族への支援の強化をあげており、7月と3月に2回学習会を開催した。
- ・第1回目の7月22日（土）は「障害をもつ子と家族のためのお金セミナー」と題し、行政書士でありファイナンシャルプランナーもされている奈良市のあかるいみらい準備室の山口代表に講演をいただいた。13名のご家族に参加いただき、将来のお金の不安や親亡き後への準備について、学ぶ機会とした。
- ・2回目は、3月23日（土）に「ひきこもり支援について～8050問題を中心に～」と題して、京都府家庭支援総合センターのひきこもり支援をされている廣田主査に講演をいただいた。参加者は10名でご家族は2名のみであったが、社会福祉協議会や他の就労継続B型事業所など関係機関からもご参加をいただいた。

2. サロン活動

- ・茶話会などの話し合いのプログラムは実施したが、参加者が1名などの月も多く、参加者がかなり減ってきている。そのような現状を受け、新たなプログラムの試行として、散策・ストレッチなどを実施したが、参加者の増加には至らなかった。
- ・出張サロンとして実施しているグループセッションの活動については自分自身のことを話す、まわりのご利用者の意見を聞く機会として定着している。就労事業所を利用されているご利用者の参加もあり、参加者も安定している状況にある。

3. 木津川市グループワーク（木津川市委託事業）

- ・今年度も木津川市の健康推進課と連携して、木津川市保健センターでの活動を中心に実施した。創作活動や散策、他事業所の見学などを実施した。
- ・サロン活動と同様に、参加者が少ない傾向が続いており、木津川市の健康推進課と現状共有のための懇談の機会を持った。来年度については、一旦活動を中止し、今後の活動の方向性について、検討を継続していくこととなった。

Ⅲ. 今後の課題（事業計画『重点施策』から）

- (1) 各機関との連携のなかで、ご利用者支援が行える体制の確立を目指す。

地域生活をされているご利用者について、地域での連携体制の確立を目指し、今後も継続して連携できる機関を増やしていく。

- (2) 5080問題に関連する実際の事例を通じて、支援の方法の蓄積を行なう。

ご家族ごとに世帯の状況（金銭状況、お住まいのかたち、支援機関の受け入れ状況）などに大きな差があるため、様々な事例を通して、アプローチ方法などを模索し、支援方法の蓄積を行なっていく。

令和5年度 いづみワーキングサポートちくたく 事業報告

I. 総括の概要

- ・年間を通じて、1名(知的障害)の新規ご利用者を受け入れた。また、4名が退所された。うち、2名は就労支援を行い、一般企業へ就職をされた。その他、1名は他事業所へ移られ、もう1名は調子を崩され、自宅での生活をされている。〔ご利用者数：18名(3月末時点)〕
- ・1月末に発注を受けていた木津川市内の業者が廃業され、作業量の確保と売上ともに影響を受けた。また、6月より京都市内の業者からお守り制作の依頼を受けることとした。
- ・月に1回、ご利用者のミーティングを開催し、生活(防災など)に関連することをテーマに意見交換を行った。

II. 項目別総括

1. ご利用者支援について

(1) 作業支援について

ご利用者が増えたこともあり、事業所全体に活気が出て、作業に対する意欲も高まった。作業ごとに仕上がった数などの記録をとるご利用者も増え、どうしたらうまくたくさんできるかななどの工夫をご利用者同士で話されていることも増えている。

(2) 作業以外の支援について

月1回のミーティングについても定着し、今年度は挨拶や防災のことなどを取り上げた。他の人の意見に興味を持ったり、自分の思いとの違いに気づいたりする機会となっている。

また、仕事探しや実習への付き添いなどの就労支援を行ない、7月に1名、2月に1名が一般企業に就職をされた。現在も継続して定期的に面談を実施し、就労が継続できるように支援を行っている。

(3) 地域活動支援センターとの連携

病状や体調などが悪化したご利用者については、地域活動支援センターと連携し、生活状態や体調の把握、通院状況などの確認を行なった。

2. 生産活動について

作業量の確保と売上の安定化に取り組んだ。1月末に木津川市内の内職斡旋業者の廃業にともない、作業のバランスの調整と新たな受注先の開拓を行った。

(1) 下請け作業について

① 塩昆布袋づめ作業(キャリアインターナショナル)

安定して発注を受けることができた。今まで作業に関わっていなかったご利用者も、作業に関われるように工夫をし、多くのご利用者で作業を分担しながら、納品数を目標に作業を行なうことができた。

② ブラシ製作作業など（内職市場）

100円ショップの水回り掃除ブラシ作成や入浴剤の袋詰めなどの作業を実施した。コロナ禍に発注のあった消毒用スプレアの充填作業の依頼がなくなったことにより、作業量と売上に影響が出ていたが、その後1月末に急遽廃業されることが決まり、他の作業への置き換えが必要となった。

③ 発送作業（木津川市内個人事業者、府外個人事業者）

2ヶ所の個人事業者からインターネット販売に関する商品の袋詰めやバーコードの貼付け作業を受け、倉庫へ発送を行なった。内職市場の作業がなくなってからは、作業の発注を増やしていただいた。

④ お守り制作作業（のむら：京都市内）

細かな作業ではあるが、ご利用者で分担して作業を行なうことができ、次第にスキルアップされるご利用者が増えてきている。納品日の指定がない作業のため、他の作業の空き時間を活用しながら取り組むことができている。

⑤ 斡旋販売

ハムのお中元・お歳暮販売、カレーやラーメン、チョコレート等の斡旋販売に取り組んだ。市役所や民生委員さんなどからも注文をいただけるようになり、売上拡大につなげた。

⑥ その他

- ・試験台紙の作成（タツタ電線）や、折り込み作業と文字入力作業（いづみ福祉会を守る会）などからの依頼を受けた。
- ・コロナ禍で中断していた加茂女のおやき製造作業補助の作業も再開した。加茂女の作業場にご利用者と職員で伺い、地域の方と一緒に作業を行なうことで、人と関わる経験の場にもなっている。

（2）工賃・賞与支給について

ご利用者の増加や各ご利用者の作業時間も増えたことにより、工賃支払い額も増え、収支面では厳しい状況となった。そのため、年度末の賞与については支払いを見送った。また、工賃変動積立金についても5万円の取り崩しを行い、工賃支払いにあてた。

Ⅲ. 今後の課題（事業計画『重点施策』から）

（1）作業を通じた支援とあわせて、生活に意識が広がるように関わりを行なう。

作業場面やミーティングの機会を通じて、基本的な生活習慣や防災など、生活場面への意識が広がるような関わりを行なう。ミーティングで生活に関連したテーマを取り上げることで、他のご利用者の意見なども聞きながら、学べる機会にしていく。

（2）新たな受注先を開拓し、作業量の確保と売上の安定化に取り組む。

昨年度に内職斡旋業者の廃業により、作業量の確保に大幅な影響を受けた。発送作業の受注量を増やすなどの対応を行ったが、引き続き、新たな発注業者の開拓を行っていく。

令和5年度 サービスセンターいづみ 事業報告

I. 総括の概要

- ・ モニタリングを半年に1回行うことを目標にしたが、年間1回の実施にとどまった。
- ・ 日中一時支援については、グループホームと連携をして、対応することができた。
- ・ グループホームのご利用者に対する外出行事を実施し、余暇の充実に取り組んだ。
- ・ 10月にサービス提供中に車両事故が発生した。そのことを受け、事故発生時の対応についての研修を実施した。

II. 項目別総括

1. ホームヘルプ

- ・ 新規ご利用者2名と契約した。
- ・ ケース会議を2名実施し、支援内容の統一を行った。

2. ガイドヘルプ

- ・ グループホーム第一・第二の合同外出を3回実施した。グループホームご利用者同士の交流の機会になった。また、社協の行事にも2回参加をして、地域との交流にもつながった。
- ・ ガイドヘルパーとご利用者との間でゲーム機の売買の約束がされる事例が起きた。先にゲーム機を渡していたことで、トラブルにつながった。スタッフ全体と、職員としての心得について、再確認を行った。

3. 日中一時支援事業

- ・ 定期ご利用者をグループホームで受け入れることで、職員配置を効率化することができた。サービスセンタースタッフがグループホームの日中支援に入ることで、グループホームの安定した職員配置にもつなげることができた。

4. 福祉移送サービス

- ・ 新型コロナウイルスの流行により、移動支援を利用される際に福祉移送サービスをご利用いただく機会が多かったが、徐々に公共交通機関を利用される方が増えてきた。
- ・ 通院介助中に職員による車両事故が発生した。運転していた職員、ご利用者に怪我はなかったが、車両・ガードレール等破損した。事故の発生を受け、ミーティングの機会を設け、職員全体で事故発生時の対応について等研修を行った。

5. 制度外サービス

- ・ 入院されるご利用者がおられず、ご利用・問い合わせ共になかった。

Ⅲ. 利用状況等

年度	月	延べ人数					金額（総額）				
		移動	一時	居宅	行動援護	合計	移動	一時	居宅	行動援護	合計
R 4 年度	4月	95	37	216	9	357	398,500	75,470	1,568,612	85,178	2,127,760
	5月	85	42	196	7	330	353,340	107,190	1,442,466	81,925	1,984,921
	6月	97	39	209	11	356	451,520	86,130	1,503,999	135,735	2,177,384
	7月	63	37	185	3	288	298,690	74,260	1,402,271	57,642	1,832,863
	8月	60	29	186	3	278	311,190	35,400	1,310,281	57,631	1,714,502
	9月	62	41	194	4	301	283,960	86,570	1,488,099	63,713	1,922,342
	10月	84	42	193	6	325	376,430	98,330	1,390,480	76,207	1,941,447
	11月	90	46	192	8	336	409,240	117,570	1,454,604	122,195	2,103,609
	12月	85	22	169	6	282	371,300	50,560	1,260,598	73,855	1,756,313
	1月	68	26	166	6	266	292,120	70,660	1,288,944	78,475	1,730,199
	2月	63	35	175	8	281	275,940	84,240	1,325,861	77,191	1,763,232
	3月	75	40	194	10	319	385,770	97,560	1,499,635	132,452	2,115,417
	合計	927	436	2275	81	3,719	4,208,000	983,940	16,935,850	1,042,199	23,169,989
	R 5 年度	4月	60	44	192	7	303	327,750	107,490	1,462,519	89,415
5月		59	41	73	7	180	345,460	112,840	1,486,713	80,164	2,025,177
6月		64	43	205	8	320	336,360	90,670	1,587,432	86,443	2,100,905
7月		56	36	199	6	297	388,440	75,970	1,502,102	114,249	2,080,761
8月		50	39	211	6	306	309,910	65,100	1,663,395	76,165	2,114,570
9月		50	42	202	4	298	292,660	94,290	1,571,261	54,368	2,012,579
10月		81	34	206	10	331	481,200	78,640	1,621,813	141,547	2,323,200
11月		64	41	190	8	303	376,750	110,340	1,412,482	100,335	1,999,907
12月		64	41	185	7	297	359,330	103,340	1,398,833	91,539	1,953,042
1月		59	35	165	10	269	340,030	104,210	1,288,889	119,719	1,852,848
2月		70	46	165	11	292	389,280	125,030	1,245,066	150,177	1,909,553
3月		67	40	179	9	295	366,510	108,790	1,346,765	99,547	1,921,612
合計		744	482	2172	93	3,491	4,313,680	1,176,710	17,587,270	1,203,668	24,281,328

*移動支援については、コロナが明け実施時間を長くする方が増えたため収入も増加した。

Ⅳ. 今後の課題（事業計画『重点施策』から）

- (1) 6ヶ月ごとのモニタリングについて、実施方法を工夫し、取り組みを進める。
- (2) 災害時の対応について、BCPをもとに細かな対応方法を構築する。

令和5年度 相談支援センター いづみ 事業報告

I 総括の概要

1. 児童発達支援センター設置（PT）及び地域生活支援拠点整備に向けての検討
 - ・木津川市の児童発達支援センター設置に向けて、社会福祉課と懇談を行った。
 - ・支援拠点設置に向けて圏域の短期入所事業所等に協力を依頼し了解を得た。
2. 乳幼児～児童期の相談支援体制の強化と木津川市健康推進課等との連携の推進
 - ・健康福祉部長との懇談を計画したが、実施できなかった。
3. 難病および重症心身障害児者への相談支援体制の強化
 - ・医療的ケア3号研修および、3号研修修了者等に向けてのフォローアップ研修を実施した。また、医療的ケア児等コーディネーター配置については、京都府が予算化しないことがわかった。今後の方針については京都府に確認をする。
4. 重層的支援体制整備の課題について
 - ・木津川市社会福祉協議会および健康福祉部長との打ち合わせを行ったが、協議や懇談の場は持てなかった。
5. 対応困難事例に対する専門性の向上
 - ・相談支援センター内での各相談員の研修課題や困難と感じている事例等の研修会を毎月実施した。

II 項目別総括

1. 基幹相談支援事業

(1) 障害児者一般相談

就学前や重症心身障害・難病・医療的ケア児者の困難事例の相談が増加した。

相談支援実績数 (人数)

	総数	身障	重心	知的	精神	発達	高次脳	難病
成人	359	41	19	135	124	15	9	16
児童	316	18	19	86	1	177	1	14

(回数)

訪問	来所	同行	電話・メール	機関連絡調整	ケース会議
221	186	87	3,228	1,959	194

(2) 市町村自立支援協議会の運営

今年度は、以下の部会を実施した。

① 障害児通所支援部会

- ・部会を3回開催し、圏域の放課後等デイサービス・児童発達支援事業所に多数参加いただき、意見交換と研修会の機会を持った。

② 相談支援部会

- ・部会を2回実施した。各相談支援事業所の課題共有と「複数事業所による協働体制」の設置に向けて準備を行った

- (3) 虐待防止センターの運営
- ・圏域内グループホームにおけるご利用者への不適切な対応について通告を行った。
…虐待認定はなし。
2. 療育等支援事業
- (1) 訪問療育：なし (2) 施設指導：なし
3. 地域移行・地域定着事業
- (1) 地域移行事業：なし (2) 地域定着事業：なし
4. 計画相談・児童相談支援事業【昨年度】
- 計画相談：成人（271件）児童（222件）計（493件） 【536件】
- モニタリング：成人（301件）児童（203件）計（504件） 【521件】
5. 各種心理検査の実施／他事業所（他法人）のスーパーバイズ
- ケース会議・打合せ：17回 心理相談・検査結果返し：2回 行動観察：3回
- 6.ペアレントトレーニングの実施（相楽東部3町村からの委託）
- 9月21日～12月14日：5回実施（フォローアップ1回）
7. 山城南障害者自立支援協議会事務局としての部会を運営
- (1) 地域生活支援部会
- ・支援拠点設置に向けて圏域の短期入所事業所等に協力を依頼し了解を得た。
 - ・市町村事業の単価見直し等：引き続き要望を行った。
- (2) 就労支援部会
- ・支援学校保護者に進路先の情報を発信する「就職フェア」を開催した。
 - ・要綱の整備と拡大部会の開催準備を行った。
- (3) 医療的ケア部会
- ・医療的ケア3号研修および、3号研修修了者等に向けてのフォローアップ研修を開催した。
- (4) 発達支援部会
- ・親支援PTでは、もっとこファイルの活用、ペアレントトレーニングを実施し

Ⅲ. 今後の課題（事業計画『重点施策』から）

1. 効率的なサービス等利用計画の作成およびモニタリングの実施。相談支援の質の向上に向けての研修などの実施。
2. 乳幼児～児童期の相談支援体制の強化と木津川市健康推進課等との連携の推進。
3. 医療的ケア3号研修の実施と支援者の養成
4. 地域生活支援拠点（面的整備）の設置および相談支援事業所の「複数事業所により協働体制」整備を行う。
5. いづみ福祉会事業所の課題の整理と令和7年度以降の事業展開についての検討。

令和5年度 グループホームサポートセンターいづみ 事業報告

I. 総括の概要

1. ご入居者の年齢や障害特性に配慮し、ホームごとに取り組みを行なった。第一いづみ荘では、ご入居者による「みんな会議」を開催し、共同生活を楽しいものにする話し合いの機会を設けた。また、第二いづみ荘では、高齢化にともなう介助・介護を 医療機関・ケアマネージャーと検討し、安心して生活できる環境や体制を整えた。
2. 第二いづみ荘では、清掃業務中心のスタッフを雇用することで、支援員の業務負担の軽減につなげた。
3. 年間4回、第一いづみ荘・第二いづみ荘合同の研修を行った。(防災・衛生・支援・外部研修報告)
また、事業所ごとにスタッフミーティングを開催し、情報共有・意見交換を行い支援の充実につなげた。

II. 項目別総括

1. 暮らしやすく・居心地良い・安心安全なグループホームを目指す。

(1) 各ホーム、短期入所事業での取り組み

- ①第一いづみ荘(女性10名)：[30代:3名、40代:4名、50代:1名、60代:1名、70代:1名]
 - ・生活スタイルや人間関係などについてご利用者同士で話し合う「みんな会議」を実施した。参加・不参加も自由にし、司会はご利用者が行うなど、自主的な運営につなげた。
 - ・毎月1回のスタッフミーティング、フルタイムパートとの会議など、職員間の連携が深まるように取り組んだ。
- ②第二いづみ荘(男性10名)：[30代:1名、50代:2名、60代:3名、70代:2名、80代:2名]
 - ・ご利用者2名が認知症を発症されたが、進行が早く対応に苦慮した。
 - ・ご利用者1名が大腿骨を骨折され、退院後にホームでスムーズな生活が送れるよう手すりの設置など行い環境を整えた。
 - ・1月よりスタッフミーティングを開催し、第二いづみ荘が抱える課題の抽出を行った。
- ③短期入所(第一:1名・第二:2名)
 - ・定期利用を中心に実施した。

(2) 調理：栄養管理・食事形態など入居者の状態に合わせ、適切な食事を提供する。

- ①透析による食事制限がある方へは、病院からの指示に従った内容の食事を提供した。
- ②嚥下困難のご入居者へのキザミ食・ミキサー食・ムース食・トロミの使用など、誤嚥防止に配慮した。
- ③調理済み冷凍食品を取り入れ、調理スタッフの確保が困難な際や昼食などに活用した。

(3) 緊急時・災害時に対応できる体制強化

- ①入居者の体調急変時には、スムーズに救急搬送できる体制を整えた。
 - ・緊急対応が必要なケースはなかった。
- ②避難訓練の定期実施、水害時における避難訓練等を実施した。
 - ・BCP（業務継続計画）を作成し、緊急時の対策を強化した。
 - ・水害時の垂直避難・避難所への移動方法など検討し、警戒レベル3での避難を想定した訓練を実施した。

2. その他

- (1) 経年劣化による設備の故障・破損には、迅速に補修・修繕に対応した。
 - 給湯器の入れ替えを行った。
- (2) ご家族へグループホームの状況報告を定期的に行い、連携した。
 - グループホームたよりを作成し、ご利用者のホームでの生活を知っていただく機会を設けた。

Ⅲ. 今後の課題（事業計画『重点施策』から）

- (1) ご入居者個々の生活に対応できる体制づくりを目指す。
 - ① ご入居者の体調変化に留意し、ご家族・主治医・ケアマネージャー等の関係者と連携し、医療面での対応やサービス利用の調整をスムーズにおこなっていく。
 - ② 暮らしの質を保つことができるように、余暇活動の充実や買物・通院などの支援を行ない、快適で暮らしやすいグループホームを目指していく。
- (2) 職員育成・研修の充実に取り組む。
 - ① グループホーム内での定期的な会議・研修を行い、人権意識や支援の向上に繋げていく。
 - ② サービス等利用計画・介護ケアプランに基づき、個別支援計画を作成し、職員間で情報共有しながら実践していく。
 - ③ 研修等への参加や他のグループホームとの情報交換・交流を通して、生活環境の向上と業務の改善に取り組んでいく。

令和5年度 いづみ児童デイサービス 事業報告

I. 総括の概要

1. 指定登録事業所を3事業所（かも・かも第二・きづ）から2事業所（かも・きづ）に変更し、活動を行った。実際の活動については、必要に応じて3ヶ所に分かれて活動を行ったが、毎週火曜日は2グループに編成するなど、次年度にも備えた。
2. 土曜日の目的別プログラムの内容を充実させ、新しい取り組みを行った。
3. ケース会議やプログラム検討、児童期の発達障害やダウン症候群の研修を行った。
4. 事業所連携にも力を入れ、個々の職員が事業所間連携を意識して支援にあたった。

II. 項目別総括

1. パート職員の採用を進め、安定した職員体制を確保する。
年度途中で正規職員とパート職員を3名採用することができ、後期は充実した体制で支援を組み立てることが出来た。
2. 事業の実施場所を含む将来構想を再検討し、次年度の準備に取り掛かる。
中高生グループは2グループ（かも支所、木津清水）で活動してきたが、職員体制や利用児童数の調整を行い、試行的に週1回（火曜日）は1グループにまとめて清水事業所で活動することを試みた。長期休暇では、他の曜日でも合同活動を試行し、次年度以降のイメージを職員間で共有したが、ご利用児童の特性によっては少人数でも2グループに分けて活動した方が安心・安全な支援が提供出来ることも検証出来た。
3. 新規ご利用者を増やせるよう、新しい他法人の相談支援センターとの繋がりを増やす。
新しい事業所（京田辺市）との連携も始まり、今後も広がるように働きかけていく。
4. 土曜日活動の充実と発展

（1）調理活動

- ①同じ具材で作るメニューを選ぶ取り組み（チャーハンかオムライスか等）で、味付けが変わることによっていろいろな料理が作れることを児童と楽しんで取り組んだ。
- ②調理活動に慣れ、スピードが上がったことで「おやつ作り」にも取り組み始めた。
- ③3月に2回、「保護者参観」を実施した。デイでの様子や調理中のスキルや個性に合わせた対応方法等を見て頂くことで、ご家族がとても喜んでおられた。（合計9家族参加）

（2）交通活動

- ①グループワークを活動の中心に置き、児童が行き先や時刻などを話し合っで決める経験を多く積めるようにした。
- ②リクエスト活動を取り入れ、予算の範囲でどこへどのようにして行くかを児童同士で計画して楽しい外出を行ったり、調理グループの昼食に招いてもらったり交流を行った。

(3) 納品・販売活動

- ①道の駅や・和東茶カフェへの納品活動や、喫茶フルーヴでの販売活動の他、JA と当尾の郷での WC 販売会でもお手伝いをした。アスピー山城での販売会では、児童デイだけで終日販売させて頂き、児童が達成感を味わっていた。
- ②第一グループホームで駄菓子販売を行い、入居のご利用者と交流させて頂いた。

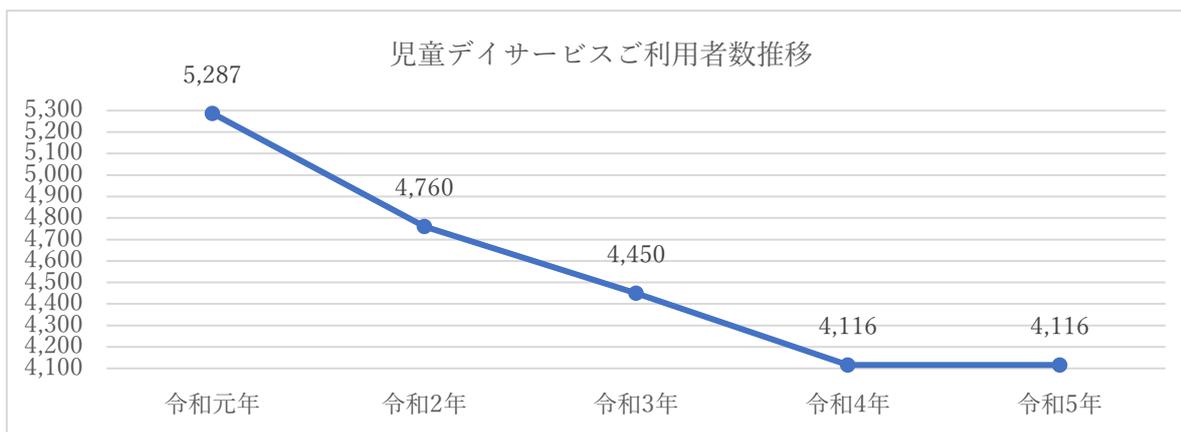
4. その他

- (1) 個別ケースの共有を他の3事業所と行う機会があり、お互いの事業所を訪問し合い、活動の様子を見学することで、事業所ごとの特色を知る機会となり、放課後等デイサービスの在り方やそれぞれの役割を考える良い機会となった。
- (2) 新型コロナウイルスが5類に移行したことで、外出活動やボランティアの受け入れを多く取り入れることが出来、活気のある活動を展開することが出来た。
- (3) 公認心理師資格取得者実習、社会福祉士資格取得者実習を多く受け入れた。

Ⅲ. 利用状況等

利用率: 定員 20 名(昨年度分は定員 30 名)に対するもの

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
開所日数	19 (19)	19 (18)	22 (22)	20 (21)	22 (20)	20 (21)	21 (20)	20 (20)	20 (20)	19 (19)	20 (18)	20 (22)	242日 (240日)
全契約数	76 (97)	77 (96)	76 (96)	78 (97)	76 (97)	75 (97)	74 (93)	73 (94)	73 (94)	73 (93)	73 (95)	72 (94)	平均75人 (95人)
利用者数 <延べ>	331 (387)	340 (346)	375 (426)	340 (412)	329 (354)	362 (398)	352 (383)	343 (406)	351 (382)	321 (373)	332 (360)	340 (420)	4,116人 (4,647人)
利用率	87.1% [67.9%]	89.5% [64.1%]	85.2% [64.5%]	85.0% [65.4%]	74.8% [59.0%]	90.5% [63.2%]	83.8% [63.8%]	85.7% [67.6%]	87.7% [63.6%]	84.4% [65.4%]	83.0% [66.6%]	85.0% [63.6%]	平均85.1% [64.5%]



Ⅳ. 今後の課題 (事業計画『重点施策』から)

- (1) いづみ福祉会が担う「放課後等デイサービス事業の役割」の検討
- (2) 平日の「くらしアップ」活動の充実と発展
- (3) 土曜日の「目的別活動」の充実と発展
- (4) 職員研修の実施

令和5年度 ワーキングセンターいづみ 事業報告

I. 総括の概要

- ・ご利用者への関わり方や介助方法（ボディメカニズム）の学習、アセスメント表の作成、ケース会議の実施などを行ない、ご利用者理解を深める機会とした。
- ・生産活動では、5類移行後営業活動が本格化したが、高齢化・重度化の課題がより一層進み、作業と活動のバランスについて、見直しが必要であることが明らかとなった。各作業班と今まで行っていた作業の実施が難しくなっている現状や介護負担の増加、日中活動の必要性などについて、情報共有と検討を行った。
- ・職員の業務量が増加し負担が増加している現状を受け、年度後半より業務改善についての検討を実施した。
- ・土曜活動では、出会いの教室（詩）と音楽活動、美術活動を月1～2回のペースで実施した。自己表現の機会として提供した。
- ・ご利用者の高齢化が進み、今までの作業内容や作業と活動のバランスがご利用者の実態とあわないことが明らかになり、班ごとの会議や事業部の業務改善会議などを通じて、今後の見直しの方向性について、検討を実施した。

II. 項目別総括

1. 支援事業について

(1) 生活介護事業（定員：44名／在籍者：51名）

- ・活動や作業内容の整理を行い、それぞれのニーズを取り入れた集団活動に再編成を行うことで、高齢化・重度化による介助量の増加に対応できるようにした。
- ・日中活動では、音楽療法、ドライブ、ドックセラピー、フットサル、美術クラブ、季節のプログラムを実施した。
- ・土曜活動では、出会いの教室（詩）と音楽活動、美術活動に取り組んだ。

(2) 自立訓練事業（定員：6名／在籍者：1名）

- ・在籍者は1名。長く在宅生活をされていたご利用者に対して、支援を行った。

(3) 就労継続B型事業（定員：10名／在籍者：9名）

- ・安定した作業の提供とコミュニケーションの力を高める支援を継続した。
- ・重度・高齢化の問題が大きくなる一方で、働くことを目的に通所されるご利用者の働く環境整備や技術面の向上についても課題が明らかになった。

2. 生産活動について

今年度は年度当初より、時給を60円から100円に変更して支給した。年2回の賞与の支給については、引き続き見送った。

(1) パン・営業班【売上計画：¥7,750,000、実績：¥8,575,822】

- ・第3土曜日のフルーフ販売は好調で地域の来客も増えてきていたが、人手不足の問題もあり年度末で終了した。
- ・地域イベント販売：19ヶ所。（昨年度20ヶ所）。大仏鉄道ウォーク、JA、笠置桜まつり等の地域イベントに参加した。ちくたくや児童デイサービスにも販売に協力いただいた。

- ・受注販売：オムロン、タツタ電線、木津川市、和束町、笠置町、南山城村、ロート製薬等。
- ・委託販売：10ヶ所。道の駅みなみやましろ村では継続して売上が好調だった。
- ・商品開発については、継続して地域の人に協力をいただき、茶処シリーズ以外の贈答用お菓子の開発に取り組んだ。
- ・年度後期から人手不足やご利用者の作業量の低下に伴い、販売先の整理を行った。
- ・物価高騰に伴い、販売価格の見直しを実施した。
- ・また、そうめん、カレー、ラーメンなどの斡旋販売にも取り組んだ。

(2) クラフト班 【売上計画：¥1,500,000、実績：¥1,846,155】

- ・奈良町販売会を年11回開催した。(昨年度：年10回)
- ・インスタグラムを活用し、奈良町販売会などの予定や販売の様子などを発信した。
- ・委託販売：6ヶ所。浄瑠璃寺やホテルアジュール等の委託販売先も観光客が増えたことで、再び商品が売れ始めている。
- ・紙すきの名刺はカビが発生するなどの問題等で作業を中断した。

(3) 少人数グループ（ガンバ班）

- ・継続して個々の発達支援に応じた作業（年賀はがき）、活動（音楽療法・ゲーム等）、生活スキルトレーニングなどを実施した。
- ・また、個々で取り組んでいた活動から集団活動への移行に取り組んだ。

(4) 重度・高齢グループ（パワフル班・カラフル班）

- ・発達的な観点での支援として、ボウリングや釣り、新聞遊びなどの活動を実施した。職員間で目的を共有することで、ご利用者の発達や楽しみ、やりがいにつながるようにした。また、活動の参加については、各自で選べるようにし、自己選択・自己決定の機会とした。
- ・他班に所属するご利用者にもプログラムの内容によって選択して参加できるようにした。(足湯、体操、ピンポン玉入れ、坊主めくり、園芸等)
- ・パワフル班・カラフル班・ガンバ班の3班合同で運営する時間を増やし、次年度に1つの班として活動を行う準備をした。
- ・生産活動では、エンボス加工の年賀はがきの制作や、道の駅みなみやましろ村で販売する鍋敷きや園芸作業で取り組んだ鷹の爪やローリエなどの商品づくりに励んだ。

Ⅲ. 今後の課題（事業計画『重点施策』から）

- (1) ご利用者のニーズと現状をもとに、それぞれのご利用者にあった作業と活動のバランスや作業内容・活動内容について検討を行ない、支援計画の見直しを行う。
- (2) 生産活動では、ご利用者の現状を踏まえた作業内容の見直しを行い、今後の生産活動の方向性を検討していく。また、現在の全事業同一工賃の工賃規程についても、見直しの検討を行なう。
- (3) 日中活動では、ご利用者の高齢化・重度化の状況を踏まえ、個々のニーズを取り入れながら、集団で楽しめる活動を実施する。
- (4) 業務方法などを見直しを行い、業務の効率化をより一層進める。